

藤田和十展「夢想する幻灯世界-風土」

砺波市美術館学芸員 杉本 積

私は、9月3日から開催するとなみ野作家シリーズ3 藤田和十（ふじた・かずとう）展「夢想する幻灯世界-風土」の準備を進めています。

この、となみ野作家シリーズという展覧会は、砺波地域(砺波市、小矢部市、南砺市)で活動する優れた美術作家を紹介するシリーズ企画です。第1回展は、南砺市井波在住の彫刻家・横山豊介氏、第2回展は、小矢部市在住の現代美術作家・加賀谷 武氏を紹介しました。第3回展となる今回は、小矢部市在住の洋画家・藤田和十氏を取り上げます。



「湖のある風景」 1996年

藤田氏は、大正14年(1925年)高岡市西明寺に生まれました。旧制氷見中学校在学中に、洋画家で美術教師であった東一雄に出会い、師事します。その後は富山青年師範学校に進み、卒業後は小矢部市、福野町の中学校に美術教師として奉職しながら、制作活動と詩作を続けてゆきます。1962年から、美術団体である国画会を中心に発表をはじめ、77年には会友、97年に会員となります。

また、本館で開催している「となみ野美術展」にも、30年間毎年欠かさず出品し、91年には「となみ野美術大賞」を、昨年は洋画部門の部門賞を受賞し、旺盛な活動を続けています。その間にも、小矢部市芸術文化連盟会長などを歴任し、砺波地域の美術文化振興にも貢献されています。

藤田和十展を企画するにあたって、昨年の10月に小西前館長と私とで出品依頼に訪れた時には、ご高齢のため出品に難色を示されました。その後何度かご自宅を訪問する中で、ようやく個展を開催することにご承諾をいただきました。それからは月に1度お訪ねして打ち合わせを重ね、3月末頃にかがった際には、国画会への出品作品を制作中でした。その時に先生は、作品を作り上げる気力の維持が非常に難しいと話をされていました。4月半ばを過ぎると、話し合いの中から大まかな展示プランが決定しました。

それは、ここ数年取り組んでいる(風土、月光、詩画)の3シリーズの近作、新作を中心に約60点で展覧会を構成することとし、過去を振り返る回顧展は行わないことになりました。それからは、先生自身による出品作品の選定と新作の制作を行っていただいております、つい先日に出品作品全てが揃いました。

藤田先生も仕事が一段落して余裕がでてこられたのか、展覧会期間中のイベントのアイデアを積極的に提案していただいております、実現にむけて努力しているところです。また、藤田和十氏の作品が、まとまった形で紹介されるのは今回初めてとなりますので、見応えのある展覧会を目指しています。

—編集後記—

先日、猛暑の名古屋へ「レンブラント」と「フェルメール」を観に行ってきました。日曜日でさぞかし黒山の人だかり・・・と思いきや、土日勤務が広まっているのか、案外空いていました。こんなところにも節電の影響が・・・と、感じました。さて、リニューアルした「友の会だより」いかがでしょうか？ご意見ご感想、お待ちしております。(M)